

## 第2回 名勝洗足池公園保存活用連絡協議会 文化財担当議題

### 議題3 名勝洗足池公園の文化財活用事業について

別紙資料：1 『ぶんかざいおおた第22号』抜粋、2 『歴史散策ガイドブック』抜粋、  
3 「文化財寄稿集」2種、4 『歴史スポットマップ（洗足池公園周辺編）』

#### ■ 1 ■ これまでの実績と今後の文化財活用事業

##### 【直近の活用事業報告】

##### ① 『ぶんかざいおおた 第22号』（令和元年10月発行）【別紙資料1】

都名勝に指定されたことに関連し、洗足池公園の歴史を中心とした特集記事を掲載しました。

##### ② 「文化財写真パネル展」（令和元年10月～12月開催）

『ぶんかざいおおた 第22号』の内容を中心に、本庁1階及び郷土博物館1階ロビーの展示コーナーにて、パネル展示を開催いたしました。

##### ③ 文化財公開見学会「洗足池公園の魅力、再発見！」（令和元年10月26日開催）

都名勝に指定されたことを記念し、御松庵としても知られる妙福寺に所在する「祖師堂」と勝海舟記念館としてリニューアルオープンした「旧清明文庫」の2件の国登録文化財を中心とした見学会を、大田区文化財保護審議委員の大川三雄氏（日本大学特任教授）を講師に迎えて実施しました。

##### ④ 『大田区歴史散策ガイドブック（雪谷・千束編）』（令和3年3月31日刊行）【別紙資料2】

地域ごとに文化財を紹介したガイドブックで、全8編のうちの1冊です。雪谷・千束編では、洗足池公園周辺の文化財を対象としています。

##### 【令和4年度開始の活用事業】

##### ① 文化財寄稿集「名勝洗足池公園」特集コーナー新設【別紙資料3】

郷土博物館HP内のコンテンツで、文化財担当学芸員がとくに紹介したい文化財を取り上げています。

今回、「名勝洗足池公園」の特集コーナーを新設し、第1弾として「洗足池公園」「洗足池公園の立地・自然」の2つを投稿しました。  
今後も、さまざまな文化財や地域の取り組みなどを投稿予定です。



文化財寄稿集・  
歴史スポットマップへの  
二次元コード

##### ② 歴史スポットマップ「洗足池公園周辺編」公開【別紙資料4】

気軽に歴史スポットを訪ね歩いて頂くことを目的とし、表が地図、裏が説明文となっている「歴史スポットマップ」をこれまでに4種類公開しています。

今回は「洗足池公園周辺編」と題し、洗足池公園周辺の文化財をマッピングし、わかりやすく説明しています。

## 【令和5年度以降の活用事業予定】

## ①刊行物・行事

- ・「文化財寄稿集」の特集投稿を追加します。
- ・他部局との連携を模索していきます。

## ② 全国・大田区の名馬池月・磨墨伝承の調査と報告

## ③関東大震災発生から100年関連事業

## ■ 2 ■文化財アピールポイントのご意見交換（第2回）

## 【コンセプト】

地元の皆様が考える「洗足池公園内でアピールしたい文化財（歴史文化要素）はなにか？」

## 【目的】

「名勝洗足池公園」の本質的価値の一つ「歴史文化要素」について、現存する文化財を通じて保護・活用の方法を模索していきます。そこで協議会委員のみなさまに率直なご意見を伺い、その内容に基づいて具体的な文化財の活用方法を検討していきます。

【対象】協議会委員 複数名（約10分程度）

## □参考□ 洗足池に関わる主な文化財一覧

## 名勝洗足池公園)

「名勝」とは「我が国にとって芸術上又は観賞上価値の高いもの」（東京都文化財保護条例）、「風致景観の優秀なもので古くから名所として知られているもの又は芸術的若しくは学術的価値の高いもの」（東京都文化財指定基準）

## A) 有形文化財等

- ・洗足池：日蓮の由来・伝承、浮世絵など
- ・勝海舟関連：勝海舟記念館（旧清明文庫、国登録）、勝海舟夫妻墓所（区指定）、西郷南洲留魂詩碑、水盤、徳富蘇峰詩碑（両雄詠嘆之詩碑）
- ・星頂山妙福寺：祖師堂（旧七面大明神堂、国登録）、馬頭観世音供養塔（区指定）、袈裟掛けの松
- ・千束八幡神社：社殿、一の鳥居、新東京八名勝碑、狛犬など
- ・巖島神社（洗足池弁財天）
- ・その他：名馬池月像、池月橋、中原街道改修碑、清水窪湧水（区指定）

- B) 埋蔵文化財包蔵地：勝海舟墓所付近遺跡（No.58、縄文時代）  
洗足池公園付近遺跡（No.203、縄文時代）

# ぶんかざい おおた

令和元（2019）年10月 発行

大田区教育委員会 大田図書館 編集  
文化財担当

〒143-0025

東京都大田区南馬込五丁目11番13号

（大田区立郷土博物館内）

TEL 03-3777-1281 FAX 03-3777-1283

## 目次

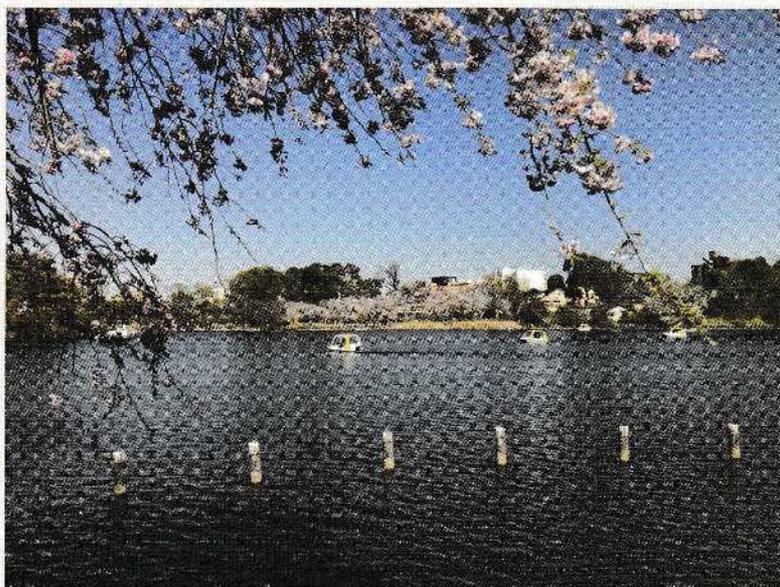
◆トピック	
洗足池公園が東京都名勝に指定されました	1
◆平成30年度事業報告	3
◆コラム	
今泉延命寺の子供双盤念仏	4
◆新刊のご案内	6

# 第22号

## トピック 洗足池公園が東京都名勝に指定されました

平成31年3月15日付で、南千束に所在する「洗足池公園」が新たに東京都指定名勝になりました。都名勝は、公園や庭園など風致景観の優秀なもので古くから名所として知られるもの、または芸術的もしくは学術的価値の高いものを対象に東京都教育委員会によって選定されます。

洗足池の佳景は江戸時代より、土地にまつわる様々な伝承とともに広く知られてきました。明治時代には、池東岸に勝海舟の別荘「洗足軒」が築かれ、夫妻の墓所が建立されたことでも有名です。近代になり周辺の宅地化が進みましたが、地元と区が一体となり池を中心とした美しい景観を維持してきました。こうした長年の保全活動によって保たれた歴史的風致が評価され、今回の指定に至りました。



洗足池公園の景観

## 洗足池公園の歴史

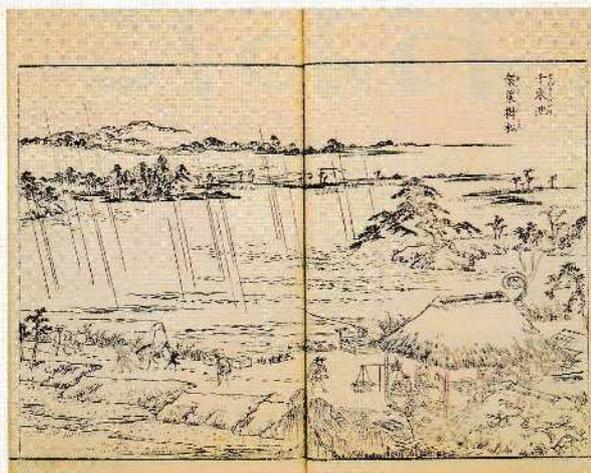
洗足池は北千束の清水窪湧水（区指定天然記念物）などを主な水源とする淡水池です。「洗足」の名称は日蓮聖人（1222-1282）が池上宗仲の館に向かう途中にこの池で手足を洗ったという伝承にちなむと言われています。江戸時代後期には様々な文献や絵画に名所として取り上げられるようになり、その知名度の高さがうかがえます。例えば江戸近郊の地誌『江戸名所図会』では池の広々とした様を描き、南岸に中原街道沿いの茶屋、東岸に日蓮袈裟掛の松、西岸に千束八幡神社を捉えています。現在も星頂山妙福寺では代替わりした袈裟掛の松を見ることができます。また幕末の日本に訪れたプロイセン王国の大使・オイレンブルク（1815-1881）の見聞録によって、たくさんの鳥が飛来する美しい池として海外で紹介されたことは特筆すべきでしょう。

明治23年（1890）頃には勝海舟（1823-1899）が洗足池東岸に農家風の別荘を建て、「洗足軒」と名付けました。現在も園内には海舟夫妻の墓所（区指定史跡）があり、墓所南側には海舟の事績を伝えることなどを目的として昭和8年（1933）に開館した国登録有形文化財・鳳凰閣（旧清明文庫）があります。旧清明文庫は今年9月に区立勝海舟記念館としてリニューアル・オープンしました。

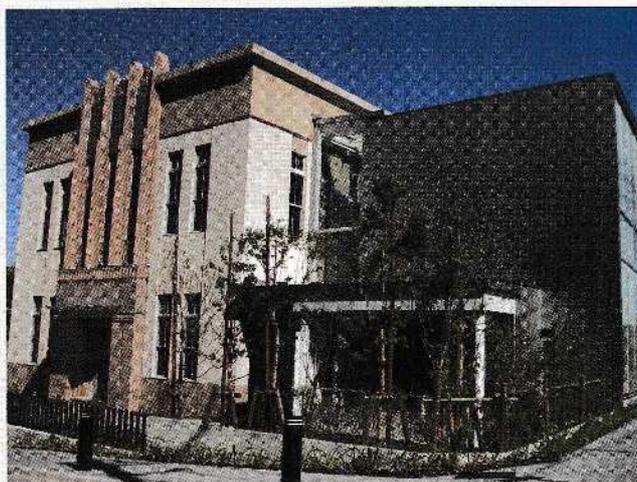
大正時代以降、交通網の整備や居住域の拡大に伴って、洗足池はそれまでの農業用ため池としての役割を終えることとなります。その後はボート遊びで有名な行楽地となり、園内には料理店やテニスコート、有料の遊園地などがつくられていきました。

加速する都市整備の一方で、自然環境の保全は喫緊の課題となり、地元の協力のもとで緑地や水辺の維持に取り組む「風致地区」の指定が行われました。洗足池は昭和5年（1930）に「風致地区」となり、同8年には地元有志により社団法人洗足風致協会（現 公益社団法人洗足風致協会）が設立されました。

これまでに都内各地で風致協会が設立されましたが、現在も活動を続けているのは当地のみであり、地元と行政が一体となって環境保全を続けてきたことは特筆に値します。その結果として、江戸時代の浮世絵にも描かれた中原街道から北に臨む景観が美しく残されていることが高く評価され、東京都の名勝に指定されました。

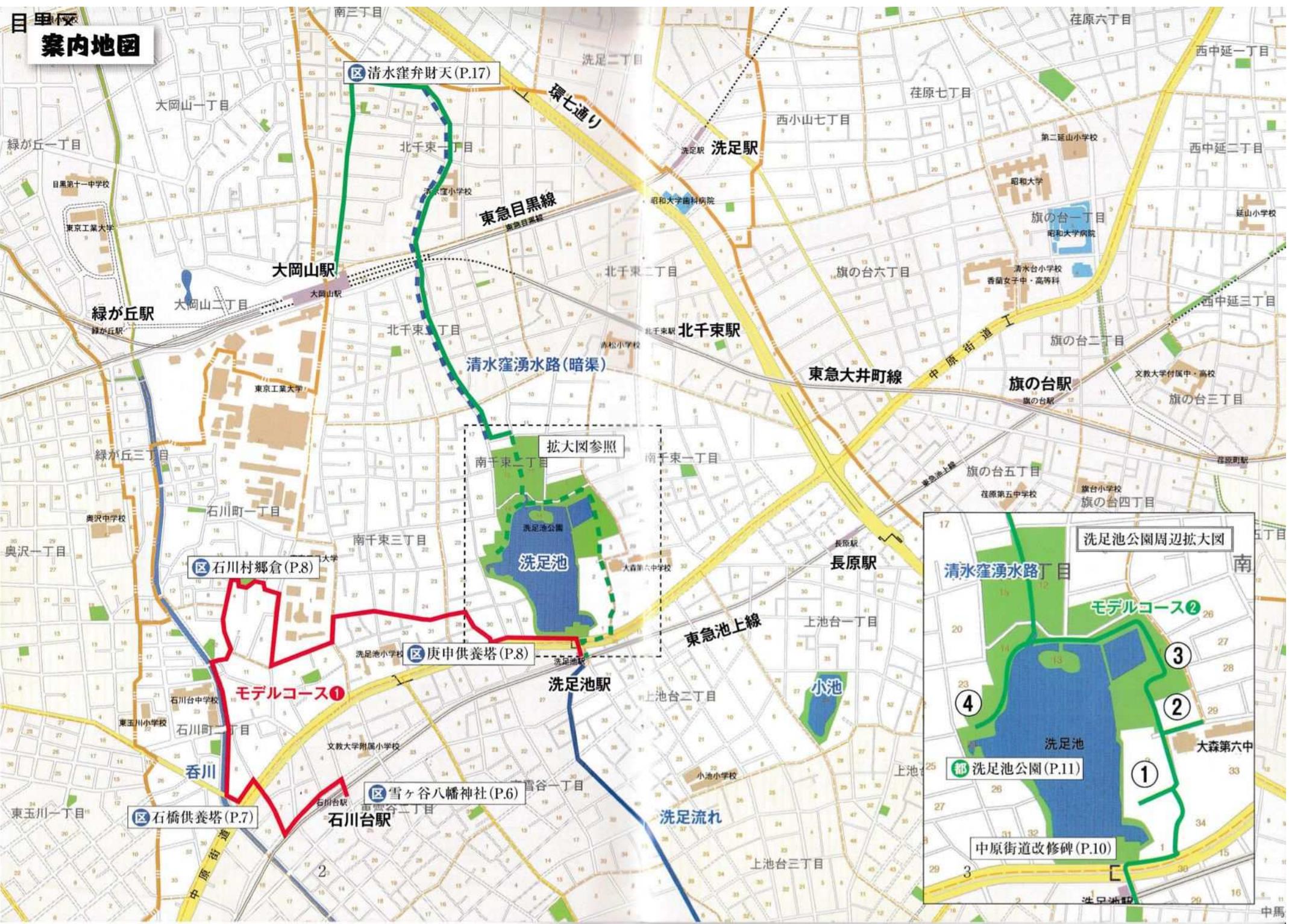


「江戸名所図会 千束池袈裟掛松」(大田区立郷土博物館所蔵)



勝海舟記念館外観（写真提供：大田区立勝海舟記念館）

# 目黒区 案内地図



拡大図参照



## 中原街道改修碑 南千束 2-33 洗足池南西角

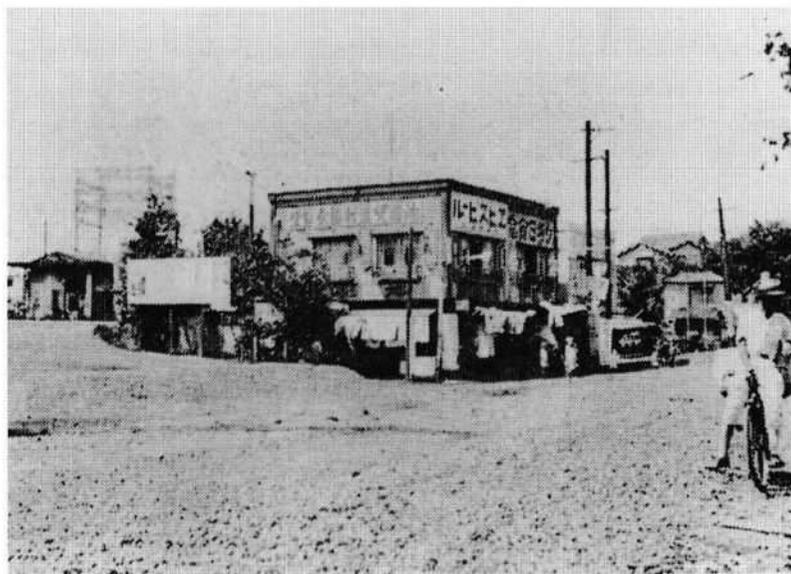
中原街道は相模と武蔵を結ぶ街道で、中世には成立していたと考えられ、江戸時代には東海道の脇街道として、沿道の産物を江戸に輸送するためなどに利用されてきました。

区内で街道の通る沼部・石川・千束付近は、急坂が多く、荷車を使った物資輸送や交通の難所となっていました。その改修は長年の課題となっていました。ついに大正6～12年(1917～23)にかけて工事が実施されました。本碑はその成功を記念して大正12年4月に建立され、銘文には困難を極めた工事の経緯が記されています。

なお、その後の再改修工事により昭和40年(1965)には現在の道幅となり、区内における旧中原街道の景観は桜坂周辺(『嶺町・田園調布編』参照)に残されるのみとなりました。



中原街道改修碑



昭和7年(1932)頃の洗足池駅前(東側から)

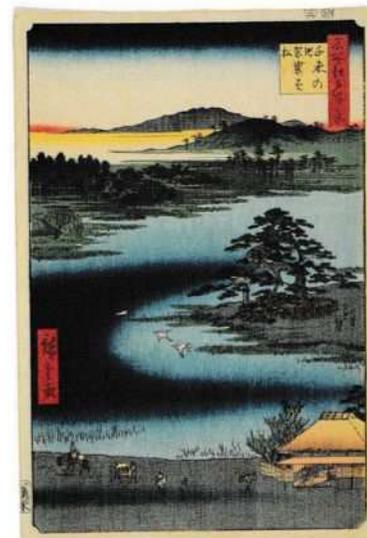
## 都 洗足池公園 南千束 2-1 ほか

洗足池公園は、清水窪湧水(P.17参照)などを主な水源とする淡水池「洗足池」を中心に広がり、桜や紅葉の名所としても親しまれています。池の名前は日蓮聖人(1222-82)がこの地で休息をとり、手足を洗ったとする伝承にちなむと言われます。

中原街道沿いに位置したこともあり、洗足池一帯の佳景は古くから広く知られていました。江戸時代には数多くの地誌や紀行文に取り上げられ、歌川広重(1797-1858)の作品にも描かれるなど、江戸近郊の行楽地として大いに賑わいました。また、幕末の日本に訪れたプロイセン王国の大使・オイレンブルク(1815-81)の『日本遠征記』において、洗足池はたくさんの鳥が飛来する美しい池として紹介されており、海外にもその名が伝わったことは注目されます。

大正時代以降は周辺の宅地化が著しく、自然環境の維持が課題となりました。昭和5年(1930)に都市計画法に基づく「風致地区」に指定されると、同8年には地元有志により現在の公益社団法人洗足風致協会の前身団体が設立され、今日まで景観が守られてきました。

平成31年(2019)3月に東京都名勝に指定されています。



歌川広重「名所江戸百景」  
「千束の池袈裟懸松」安政3年(1856)  
郷土博物館蔵



洗足池全景(南側から)

指定：都指定文化財（名勝） 平成31年（2019）3月15日指定

所在地：南千束2-1-4他（交通アクセス：東急池上線洗足池駅から徒歩1分）

公開の有無：常時公開（寺社・公共施設を除く）

大田区内最大の池、洗足池を中心とする洗足池公園は、その歴史・風致景観・景観を支えてきた地域活動などを要因として、平成31年に東京都の名勝めいしょうに指定されました。

文化財保護法において「名勝」とは「我が国にとって芸術上又は観賞上価値の高いもの」と定義されています。ここでは、洗足池公園の価値や重要性を構成する3要素について説明していきます。



洗足池公園

## 1・歴史

洗足池公園には、古くは平安時代から鎌倉時代にさかのぼる源頼朝の愛馬池月のいけづきの傳承や日蓮聖人にちれんしょうにんの傳承が残っています。広く世に知られるようになったのは江戸時代以降で、中原街道沿いの景勝地として賑わい、浮世絵うきよえにも描かれました。現在も、園内には古い歴史を持つ寺社や勝海舟かつかいしゅう関連の文化財などが多数立地しています。これらは別稿にて詳しくご紹介します。

## 2・風致景観

洗足池公園の大きな魅力は、なんととっても豊かな緑と水を有する公園としての自然景観です。都市開発が進む中、付近に高い建物が無く、古くからの自然が残り多くの生き物が生息しています。スワンボートなどの遊具も人気で、休日は多くの方々が来園し四季折々の風景を楽しんでいます。

## 3・地域活動

洗足池公園周辺は、緑と水の保全を目的として昭和5年に風致地区に制定され、その管理団体である洗足風致協会せんぞくふうちきょうかいは昭和8年に設立されました。それ以降今日に至るまで、地元住民によって運営され、洗足池公園の保護・維持・推進に最も重要な役割を担っています。この他、洗足池駅商店街での活性化行事や、近隣の小中学校との連携活動も洗足池公園を活用した地域の取り組みです。

この3要素の他にも、休憩所や洗足池図書館などを有している公園としての機能も重要な要素です。

このような名勝洗足池公園を未来へ向かって保護し、活用していくため、令和3年6月には大田区によって「名勝洗足池公園保存活用計画」が策定されました（右二次元コード参照）。

ぜひ市街地の中の貴重な自然や歴史を体感しにご来園下さい。



指定：都指定文化財（名勝） 平成31年（2019）3月15日指定

所在地：南千束2-1-4他（交通アクセス：東急池上線洗足池駅から徒歩1分）

公開の有無：常時公開（寺社・公共施設を除く）

洗足池は、多摩川の左岸に広がる<sup>むさしのだいち</sup>武蔵野台地の入り組んだ谷の付け根に立地しています。もともとは<sup>かんがいよう</sup>灌漑用として、洗足池の北側に位置する<sup>しみずくぼゆうすい</sup>清水窪湧水（区指定文化財）をはじめとした湧き水や雨水などを堰き止めてつくられた淡水池です。この洗足池の水は、南側の「洗足流れ」という小川を通り<sup>のみがわ</sup>呑川に流れ込んでいます。

また、洗足池はもともと<sup>せんぞくこう</sup>千束郷の大池と呼ばれており、さらに大きな池でしたが、埋め立てなどによって現在の形となりました。なお対となる小池も現在の<sup>せ</sup>上池台1丁目27番地にのこっています。

洗足池とその周辺の自然については、幕末にプロイセン王国の日本使節団の代表として来日したオイレンブルクの『日本遠征記』に「<sup>のがも</sup>野鴨や<sup>がん</sup>雁の大群がやってくる」、「水には<sup>こずえ</sup>緑の木の梢がどの角度からも映って見える」（万延元年（1860）9月の項）と書かれているなど、当時から緑豊かな土地であったことがわかります。

現在も、区内有数の桜の名所として知られており、バードウォッチングの方々もたくさん訪れるほど自然環境に恵まれた憩いの場です。令和2年度の調査では約95種、1,300本の樹木が園内に存在することがわかりました。さらには、鳥類だけでなく、多くの魚類、昆虫類、両生・爬虫類などによって、洗足池の生態系が保たれています。これらを持続的に保護していくため、大田区では「ギンヤンマの飛ぶ公園」を目標として池周辺の環境整備を行い、日々、樹木の新植や水質浄化の取り組みを行っています。

〔関連文化財〕区指定天然記念物 清水窪湧水（北千束1-26）：

東京の名湧水57選の一つで、湧水地点の池には弁財天が祀られています。



洗足池の立地図  
（国土地理院 電子国土WEBをもとに加筆）



洗足池公園の清水窪湧水路

● 文化財の位置



### 〔清水窪湧水〕

区指定文化財。洗足池公園の水源の一つで、かつては田畑の灌漑にも利用されていました。湧水地点の池には弁財天が祀られています。

しみずくぼゆうすい  
清水窪湧水

### 〔区立勝海舟記念館〕

旧清明文庫(国登録文化財)

所在地：南千束2-3-1

入館料：一般300円、小中学生100円、  
高齢者(65歳以上)240円

開館時間：10:00~18:00

休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、  
年末年始、臨時休館日

電話番号：03-6425-7608

歴史的建造物を活用し、海舟の功績や  
大田区との縁を紹介しています。  
建物内部も見学できます。

### 〔庚申供養塔〕

現存する塔は文化11年(1814)に浄土宗の御忌講の人々によって再建されたものです。品川宿から中原街道を北西に分岐し、九品仏浄真寺(世田谷区奥沢)へ向かう「九品仏道」の道標を兼ねています。現在の旧道は建物などで分断されています。

都名勝  
指定範囲

せんぞくいけこうえん  
洗足池公園①

勝海舟夫妻墓所・  
西郷南洲留魂詩碑

勝海舟記念館

洗足軒跡地

区立大森第六中学校

妙福寺

千束八幡神社

旧九品仏道

こうしんくようとう  
庚申供養塔

区立洗足池小学校

中原街道改修碑

洗足池駅

こいけこうえん  
小池公園

いしばしくようとう  
石橋供養塔②

石川台駅

ゆきがや はちまんじんじゃ  
雪ヶ谷八幡神社③

せんぞくなが  
洗足流れ

### 〔小池〕

昔「千束郷の大池」とよばれていた洗足池の対になるのがこの小池です。小池も農業用の溜池でした。

### 豆知識

#### “散歩でフレイル予防”

「フレイル」とは体力や気力、認知機能などからだやこころの機能(はたらき)の低下によって要介護に落ちる危険性が高まっている状態のことを言います。

「フレイル予防」に取り組み、健康寿命の延伸をさせましょう。そのためには毎日の運動も欠かせません！ぜひ歴史を学びながら、フレイル予防に取り組んでみませんか？

### 洗足池公園の文化財

#### ★洗足池公園 (①)

平成31年、東京都の名勝に指定されました。清水窪湧水などの湧き水や雨水を堰き止めた人工の淡水池です。街道沿いの緑豊かな名所として知られ、江戸時代後期には歌川広重の浮世絵にも描かれました。このような自然環境や歴史、地域の取り組みなどが名勝の指定理由です。

#### ★千束八幡神社と名馬池月之像

八幡神を氏神とする清和源氏の信仰を集めた千束八幡神社には、源義家や源頼朝に関わる伝承が残されています。平家物語の「宇治川の戦い」で佐々木高綱が騎乗した名馬「池月」はこの地で産まれて頼朝の手に渡り、梶原景季の乗る馬込産の名馬「磨墨」と共に活躍したとされています。現在の北千束駅は、昭和3～5年には「池月駅」という駅名でした。



名馬池月之像

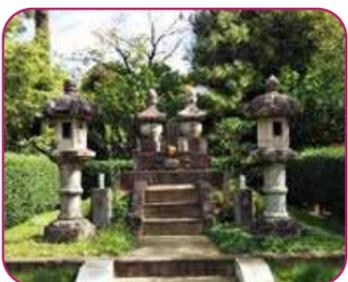
### 勝海舟と洗足池

#### ★勝海舟記念館 (旧清明文庫)

(ご利用案内は地図の面に記載)  
国登録文化財。旧清明文庫は、財団法人清明会によって海舟の遺蹟の保存や図書収集などを目的に昭和3年に建造され、同8年に開館しました。随所にアール・デコ様式の意匠を取り入れた鉄筋コンクリート造の会館建築です。

#### ★勝海舟夫妻墓所

区指定文化財。海舟は新政府軍との交渉に向かう際、洗足池に立ち寄った縁で晩年に別荘「洗足軒」(現大森第六中学校の位置)を構え、友人たちと花鳥風月を愛でたといひます。没後は海舟自身が生前から用意していた池畔の墓所に葬られました。



勝海舟夫妻墓所

#### ★西郷南洲留魂詩碑

西郷隆盛(南洲)の三回忌にあたる明治12年、海舟が自費で建立し、後年現在地に移設されました。南洲が沖永良部島に配流された際に詠んだ漢詩が刻まれています。



西郷南洲留魂詩碑

#### ★妙福寺祖師堂(旧七面大明神堂)

国登録文化財。妙福寺には、日蓮聖人が池のかたわらの老松に法衣をかけ足を洗った際に、七面天女が出現したという「袈裟懸(掛)の松」の伝承が残り、御松庵とも称されています。祖師堂は明治中期に建立されたもので、向拝には伝承にある袈裟と松が彫刻されています。



祖師堂の向拝  
(中央に袈裟、両脇に松が彫刻されています)

#### ★馬頭観世音供養塔 (妙福寺内)

区指定文化財。天保11年(1840)に道標を兼ねて建立され、後世現在地に移設されました。「北堀之内・碑文谷」「南池上・大師」「東江戸中延」「西丸子稲毛」との銘文が彫られています。



馬頭観世音供養塔

#### ★中原街道改修碑

中原街道は、中世から相模と武蔵を結ぶ主要な街道です。この付近は急坂が多く、物資輸送や交通の難所となっていたため、大正6～12年にかけて改修工事が行われました。当碑はその成功を記念して建立され、銘文には困難を極めた工事の経緯が記されています。

### 雪谷の文化財

#### ●石橋供養塔 (②)

区指定文化財。安永3年(1774)に雪ヶ谷村の人々によって、呑川にかかる石橋の安泰とその通行人の安全を願って建てられたものです。日蓮宗寺院である照光山円長寺(南雪谷5-5-20)が造立に関わっており、正面には題目「南無妙法蓮華經」が刻まれています。



石橋供養塔

#### ●雪ヶ谷八幡神社 (③)

境内の庚申供養塔群は区指定文化財です。これらは、元々雪ヶ谷村内各所にあった7基が集約されたものです。雪ヶ谷村域には他にも庚申塔が5基現存しており、村内に多くの造立があったことから、庚申信仰が盛んであったと考えられます。



庚申供養塔群の一部

さらに詳しくは、こちら↓もご覧ください！郷土博物館で購入できます。  
『大田区歴史散策ガイドブック(雪谷・千束編)』(価格:1,000円)  
『大田区の史跡名勝天然記念物』大田区の文化財第36集(価格:2,000円)  
『大田区の石造遺物』大田区の文化財第37集(価格:2,000円)